



低血糖処置にグルカゴンGノボ注射用1mgを注射される方へ

大切な注意です 必ずお読み下さい

- ◎意識を失うような強い低血糖症を起こしたとき、看護者(家族等)がグルカゴンを注射します。低血糖症が起こっていることを本人が気づかなかったり、わからずに意識不明になることもあるので注意して下さい。
- ◎低血糖症の処置法に十分注意して下さい。この注意は必ず家族やまわりの方にも知らせておいて下さい。
- ◎何か体の調子がいつもと違うことに気がいたら、すぐに主治医に相談して下さい。
- ◎あなたに処方された糖尿病の薬の注意文書(患者さん用)も併せてお読み下さい。

1. 低血糖症について

- (1)低血糖症とは血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い空腹感、力のぬけた感じ、発汗、手足のふるえ、眼のちらつき等が起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。空腹時に起こり、食物を食べると直ちに良くなるのが特徴です。はなはだしい場合にはけいれんを起こしたり意識を失うこともあります。
- (2)糖尿病の薬の量が多過ぎたり、医師によって指示された時間に食事をとらなかつたり、いつもより激しく運動したりすると低血糖症が起こることがあります。低血糖症は危険な状態ですから、起こらないように注意し、もし起こったら、軽いうちに治してしまわなければなりません。
- (3)低血糖症が起こっていることを本人が気づかなかったり、わからなかつたりすることがありますので家族やまわりの方もいっしょに注意して下さい。
- (4)十分注意していても、ときには意識を失うような強い低血糖症が起こることがあります。いつ、どこで起こるかわかりませんから、糖尿病であることを示すカードを身につけておく必要があります。

2. 低血糖症が起こったら

- (1)軽い低血糖症が起こった場合(意識があるとき)
低血糖症になっても軽いうちは糖分を食べると治ります。食べられるときは20~30gの糖分をとって下さい。
- (2)意識を失うような強い低血糖症が起こった場合(口から糖分がとれないとき)
 - 1)まず、救急車をよびます。
 - 2)グルカゴンを注射します。
 - 3)通常、注射してから10分以内に症状が改善します。もし改善しない場合は、すぐに救急車で病院へ行って下さい。
 - 4)回復したら必ず20~30gの糖分をとって下さい。(あるいは食事をして下さい。)
 - 5)低血糖症を起こしたことを必ず主治医に報告して下さい。

(注意)アルコールを飲んでいて低血糖症を起こした場合、グルカゴンを注射しても効果がありませんので注意して下さい。

3. 正しい注射方法

- (1)注射手技などの方法については、主治医の指導をよく受け、正しく注射して下さい。
- (2)注射する前には手指を石けんでよく洗い、使用前にバイアルのゴム栓を消毒用アルコール綿でいねいに拭いて下さい。
- (3)注射するときは、薬を添付の溶解液で溶かして使います。必ず溶解液を全量加えた後、泡立たないように注意しながら静かに振って溶かして下さい。
- (4)完全に溶けなかった場合、又は浮遊物が見られた場合は使用しないで下さい。

4. グルカゴンの保存方法

- (1)冷蔵庫内に食物などとは区別して外箱に入れたまま、清潔にして保存して下さい。
しかし凍らせてはいけません(フリーザーの中には入れないで下さい)。凍らせた場合は使用しないで下さい。
- (2)直射日光のあたるところ、自動車内など高温になるおそれのあるところには置かないようにして下さい。
- (3)グルカゴンは溶解後、すぐに使用して下さい。
- (4)外箱及びバイアルに表示してある使用期限を過ぎたものは使用しないで下さい。

【製品情報お問い合わせ先】

EAファーマ株式会社

くすり相談



0120-917-719